

## 薬学研究科 薬科学専攻（博士後期課程）

### 【ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)】

薬学研究科薬科学専攻（博士後期課程）では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、薬学と栄養学の融合分野において専門的能力および豊かな人間性と社会性を兼ね備え、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物を育成します。薬科学専攻（博士後期課程）で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、薬科学専攻（博士後期課程）の学位授与方針に従って修了を認定し、博士（薬科学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、思考力・判断力を高めるとともに、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズを解析し、人類文化の発展に貢献する能力を有している。
2. 薬科学専攻（博士後期課程）での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”において、リーダーシップを発揮する能力を有している。
3. 薬学と栄養学の融合分野に関する学びを通じて、個々人が主観的な生活と人生の質（主観的 QOL）を高く維持し、健康のよりよい状態を目指すことを支援するために、必要とされる高度な専門知識と技能に加え、地域や国際社会における諸問題の解決に関する研究遂行能力と問題解決能力をさらに高め、それを将来にわたり発展させようとする態度を有している。

### 【カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)】

薬学研究科薬科学専攻（博士後期課程）では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマ・ポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. 人類文化の発展に貢献する能力を養うために、自身の専門を含む広い範囲の「特論科目」を設定する。その評価においては、形成的評価を適宜行い、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
2. “協創”による社会問題の解決においてリーダーシップを発揮するための科目として、能動的活動を主体とする「特論演習科目」を設定する。その評価においては、学内外の多様な評価者が関わる形で形成的評価を行い、また、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
3. 薬学と栄養学の融合分野に関する学び及び探究を深めるため、研究論文作成を行う。研

究計画の策定及び研究実施の過程において形成的評価を適宜行い、合否の判定を伴う総括的評価は、複数の研究科担当教員が関わる形で、薬科学専攻（博士後期課程）が示す基準に基づき、学位論文審査及び最終試験（口頭試問）において行う。

### 【アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)】

薬学研究科薬科学専攻（博士後期課程）では、薬学と栄養学の融合分野の広い知識と深い専門性の学びを提供し、個々人が主観的 QOL を高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために必要とされる高度な専門性と豊かな学識を有し、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物の養成を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1. 薬学と栄養学の融合分野に関する多様な事象に理解を示し、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって活動する意思を有する人
2. 薬学と栄養学の融合分野に関する研究を通して他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組むうえで、リーダーシップを発揮する意思を有する人
3. 薬学と栄養学の融合分野に関する学問分野において、必要となる基礎的な知識と技能を有しており、大学または社会で学んだ教養をさらに深化・発展させて、地域や国際社会に存在する様々な課題に取り組もうと考えている人

(2027 年 4 月入学者用)